



特定非営利活動法人 KHJ 香川県オリーブの会  
連絡先 TEL・FAX 087-843-9877 (川井)  
ホームページ <http://khj-olive.com/>

沿道に咲く紅白の山茶花が心を和ませてくれます。暖冬との予報ですが、新型インフルエンザが流行っております。くれぐれもご自愛ください。さて、月例会を下記の通り開催いたしますのでご案内申し上げます。

### 第90回月例会ご案内

- 1) 日 時 12月20日(日)  
13:00~13:30 受付  
13:30~16:15 1. グループ別話し合い  
父親グループ・母親グループ(予定)  
休憩  
2. 全体討議(仙台大会を受けて)  
「ひきこもり地域支援センター」設置に向けて知事への要望書提出について 他
- 2) 場 所 香川県社会福祉総合センター 6階 研修室  
TEL 087-835-3334 県庁の斜め向い
- 3) 参加費 会員: 1家族 1000円 非会員: 1家族 1500円

#### 【今後の月例会】

- 1月24日(日) 香川県社会福祉総合センター 13:30~16:30  
KHJ徳島県「つばめの会」副会長・臨床心理士 浅田みちる氏
- 2月21日(日) 香川県社会福祉総合センター 13:30~16:30

#### 【居場所活動予定】

- 12月6日(日) 運営委員会 (13:30~16:30)  
12月12日(土) 松田勝先生 個人カウンセリング (9:00~13:00)  
12月12日(土)・20日(日) ポパイの会 (13:30~16:00)

## 【前回(11/22)の例会より】

演題 「家族の再生」 - ひきこもり家族とどう生きるか -

講師 前高知県教育長 大崎 博澄 氏

私は専門家とか研究者という立場ではございません。ひきこもりの子どもを持つ当事者として自分がこれまで学んできたこと、教育に関わる仕事をやっている八年の間、いろんなハンディキャップを持った子ども達や保護者の皆さんからいろんな相談を受けてきた経験から学んだこと、つまり自分自身の生活の中で学んだことと、相談を受ける中で学んだこと、こういうことしか知りません。

「家族の再生」というテーマを頂いたときは少し予想外でした。でも考えてみると当事者にとっては非常に切実なテーマでもあるかなということ、いろいろお話をする準備をしている中で非常に切実でいいテーマであるのだなぁということを感じました。

ただ、非常に皮肉なことなんですけど、私の家庭は世間から見れば、今完全に家族の崩壊という状態にあります。家族の崩壊を生きている当事者の私が「家族の再生」を語るというのは非常に複雑な思いです。そういうお話をすることは大変不遜なことだとも思えますし、また一方では家族の崩壊を生きている当事者なればこそ語れるのではないかという両方のことを感じています。

私が高知で講演をしたときの記録をこちらの機関紙に載せて頂いて、それをお読みになった方から、大変厳しい状況の中で随分悟りを開いておられるとか、仙人のような考え方をしておられるということ、不思議に感じられた方がおられるそうでございますが、実は私は悟りとか仙人とかということから一番縁遠い、本当に毎日が苦しみに満ちた大変悲惨な生活をしています。

私は非常に弱い人間です。苦しみに満ちた大変悲惨な生活はしています。が、一方で自分の心の内面をひたひたと満たす不思議な幸福も感じています。多くの人に愛されている、支えられていることを日々感じているからです。日々愛されている、支えられているということを感じられるお蔭で何とか心のバランスを保っている。どうにもならないときは、抗うつ剤も飲んでいきます。

今日は我が家の現状と、その中で私はどんなことを考えているか、どんなことをしているか、人生をどう生きるかということを出来るだけ包み隠さず率直にお話をしたいと思います。「家族の再生」というのは、凄く切ない重いテーマです。私の話の中で解決の道を示すような力は到底ありません。が何かこれから皆さんの人生を少し豊かにする、そうするためのヒントになるものがあればとても幸いだと思います。

(以後の 1. ひきこもりをどう捉えるか。 2. 親としてどう向き合うか。 3. 世の中とどう付き合っていくのか、人生をどう生きるのか。 についてのお話は、第86回月例会のご案内で既に掲載済みですので、省略させていただきます。次に、

ひきこもりの「家族の再生」ということは、ノウハウとかテクニックとかマニュアルとかでは出来ないと考えるのです。ひきこもり「家族の再生」は、自分の人生をどう心豊かに生きるかに帰着するという風に私は思っています。自分の人生をどう心豊かに生きるかということが、家族の再生に近づく一番の近道だと思っています。

「家族の再生」は天からは降ってこない。誰かが助けに来てくれる、白馬に乗った王子様が助けに来てくれる。或いは、国や政府が何とかしてくれるという見込みは薄いですね。私がどう人生を生きるか、皆さんが皆さんの人生をどう生きるか、そこに懸かっていると思います。私が、自分の人生をどう心豊かに生きていくかということは地獄の20年の中で少しずつ明らかになってきたのです。二つの要素があります。

一つは、小さなものを愛する好奇心ですね。これは、どの子どもたちも、本来、生まれた時から持っているものです。多くの方が大きくなるにつれて失って行くのですが、小さなものを愛する好奇心があると人生を心豊かに生きられる。どんなに貧しくても辛いことがあっても、そういう風に僕は思います。

通勤の行き帰りに川面を見ると出会う亀、鯉、ボラ、歩道の脇のスミレの花が激励してくれて元気になることが出来る。

もう一つは、人の心の痛みに思いを寄せる想像力ですね。息子のひきこもりによって胸の底に24時間、鉛のような重い悲しみ痛みを感じる日々の中で、悲しみがもたらしてくれた幸せというものがあるのです。それは人の心の痛みが、自分の心が痛み出したお蔭で分かりだしたということ。自分の心の痛みだけに捉われていたら、これが分からなかったかも知れない。自分と同じような悲しみを抱えているなぁということ、自分が人と会うごとに想像できるようになった。

それから僕の周囲にいる友達の様相が一変した。心に痛み悲しみを抱えてから、同じように痛み悲しみを抱えている人が僕の周りに集まってくれるようになった。そういう人達がいつも僕を励ましてくれる。僕もそういう人達を励ましてあげる。こういうことが出来るようになって、この悲しみに押しつぶされなくて、時々大きな声で笑ったり、悲しみの中にひたひたと自分を浸してくれる幸せを感じながら、生きることが出来るようになりました。

小さなものを愛する好奇心と、人の心の痛みに自分の思いを寄せる想像力があればどんなに厳しい境遇におかれても、不幸を幸せに変えて人は心豊かに生きていけると思います。そういうものを持っていると、追い詰められている家族にも何がしか、私の心の余裕・心の豊かさは伝わっていく。そこから「家族の再生」の展望も開けるのではないかと。また、人の心の痛みに自分の思いを寄せるという気持ちを持っていると、周囲の人、家族以外の人にもそれは伝わっていきます。

自分の目の前の困っている人に手を差し伸べることが出来れば、何より自分自身の心が何よりですね。それによって力を得ることが出来る。こういうささやかな生き方をしていることが、「家族の再生」という希望を少しずつ引き寄せる力になっていくだろう。つまり家族の再生というのは、私自身、皆さん自身がどう生きるかということに懸かっている。

是非、厳しい環境の中でも少しでも心豊かに生きて欲しい。小さなものを愛する好奇心があれば、いろいろな心の傷を早く癒すことが出来る。人の心の痛みに思いを寄せる想像力があれば、同じように痛みを抱えた人達が、自分のもとに集まってきて自分も支えてくれる、励ましてくれるようになる。

誠に頼りない話だと思われるかも知れませんが、今のところ私が家族の再生に向けて描く処方箋というのはこの二つしかない、そういうような感じです。

人生の収支決算を、僕も晩年になりますので時々やってみるのです。二人の子どもが大変な状態になり、世の中からシャットアウトされる状態になって、こういう不幸を背負って私が失ったものは何か。

老後の蓄え（藁をも掴む思いで神頼み・住まいを転々とする等）

自分のために使う時間が無くなった（詩やエッセイを書くこと・読書・友人との時間等）

不幸を背負って頂いたものは何か。

小さなものを愛する好奇心（心の痛み、傷を癒してくれる）

人の心の痛みに寄り添う想像力（本当の友達ができ、その人が支えてくれる）

社会的な弱者の立場に立ち切る確信が出来た

死の恐怖からも解放された

年をとっても衰えない闘志（不条理な社会を変えないといけない）

「たんぼぼ教育研究所」という悩み事相談を受けるところを、教育長を辞めて携帯電話一本で始めた

んですね。たくさんの悩みを抱えるお父さん、お母さん、先生方、子ども達から悩みごと相談を受けてきたので、これは自分が天職として仕事を辞めてもやらないといけないと思い、携帯電話一本でそれをやっていたのですが、来年の四月から事務所を提供してくれる企業が現れて、机、パソコン、本棚も運ばれています。来年の四月から「たんぼぼ教育研究所」を始めようと思っています。

そこでは、教育相談とか、悩みごと相談を受けます。それから居場所も作ります。精神障害者の方とか、ひきこもりの方とか、不登校の子ども達とか、ちょっと外へ出たいけれど行く場所がないという人達がふらっと立ち寄り、コーヒーを飲んでいたり、世間話をしていたり、時々トランプなんかで遊んだりとか出来るような、そこは居場所にもしたいと思っています。

教育政策の研究というのは全く進んでいないですね。国立教育政策研究所という施設はあるのですが、文部科学省の出先機関でやはりやることに限界がありますね。もう少し幅の広い、もう少し本質に迫る教育政策の研究をやっていききたい。詩やエッセイも書きたい。こんなことをやる場所を来年の四月には作りたいと思っています。オープンしたら川井さんの方へお知らせしたい。皆さんも寄って頂きたいと思います。

さて、私が不幸を背負って失ったものと、不幸を背負って頂いたものを、こうして差し引き勘定をするとですね。どちらが自分の人生にとって意味が深いか。圧倒的に不幸を背負って頂いたものの方が大きい、重いという風に私は思っています。という風な感じで、私は地獄の20年をヨタヨタと何とか自分を励ましなが、他人にも励ましてもらいながら生きてきたと思います。

県庁に在職中から僕のところに時々メールで何となく淋しそうなメッセージを送ってくる方がいました。この方も非常に不器用でなかなか仕事が上手くいかない、人間関係も上手くいかない、そういう県庁職員だったみたいです。時々、僕の言動が新聞に載ったり、僕の書いたものが新聞に載ったりすると、いつもこの方がメールをくれました。なかなか鋭い感想が書かれていたのです。何かこの方が悩みを抱えておられていることが、言外に分かったのです。今この人が毎日二通くらいメールをくれます。我が家の状況を逐一彼女に話して、お互いに我が家の大変さを言いあっています。始めのうちは、この人の相談を受けて助言をしていたのですが、最近はこの人に自分の悩みごとを聞いてもらって励ましてもらうことのほうが多くなりましたね。そういう感じで、どっちがカウンセラーなのか、お客さんなのか分からない、そういう感じになっています。

私が「たんぼぼ教育研究所」でやりたい教育相談はそういうことですね。知識のある人、偉い人が一方的に何かを教えたり助言したりするのではなく、まさにピアカウンセリングですね。そういうことをやっていききたい。悩みを抱えている人の気持ちをしっかり聞いていけるように、そういうカウンセリングをやっていききたい。そういうことをやりながら、「お父さんあの時助けてくれなかった、ひどいお父さん」と今言われていますが、お父さんを子ども達が、もし見直すきっかけになればと我が家の再生の希望も少し出てくるのではないかという風に思って頑張っています。

とりあえず今日の私の話でした。

#### 【質疑応答】

Q：小さな弱い子を守る学校とは、もう少し具体的にいうとどんなイメージなのか。

A：特別にそういうことを旗印にした学校をつくるという考え方ではない。今の多数ある公立の小、中学校の中にそういうものを作っていないといけない。どういう方法でつくるか。今学校には学力の問題、不登校、いじめ、子ども達の暴力の問題、学級崩壊、学校崩壊とか山のように教育課題がある。例えば不登校の問題とか、子ども達が暴れて誰かを傷付けたという事件が起

こると、どういことを私たち教育行政とか学校の先生方はやってきたか、スクールカウンセラーの配置を望む声が圧倒的に多いが、スクールカウンセラーを配置してもそういう問題は解決できない。このことは非常に大事なことです。スクールカウンセラーが解決出来るのはほんのごく一部。ちょっと心の傷を負った子どもが相談をして問題がもしかしたら解決するかも知れない、その程度のこと。一番重要なことは「小さい弱い人を守る」という価値観を持った学級をつくること、学級経営を変えろということ、学級経営を良くしていくには先生が持つ価値観、哲学が必要である。この哲学、価値観の第一に「小さい弱い人を守る」という考え方を置いて欲しい。そのことを先生方にいつも願います。勉強の出来ないA君、家庭が非常に貧乏なB君、身体に或いは心にハンディキャップを持ったC君、発達障害があるD君、こういう子どもがどの教室にも必ずいる。A君、B君、C君、D君を先生がいつも心にかけている。こういうような価値観を持って先生が日々の授業をしたり、学級経営をしていけば必ずその価値観は子ども達に伝染していく。子ども達は何と云っても大人たちよりは純情ですから。先生の価値観が移っていくと「小さい弱者を守る」学級をつくる。どの学級でもこの価値観を持って運営されることが大事です。

Q : 小学校のときいじめにあつて、学校へ行きたくなかつたが歯を食いしばつて行つた。そのストレスが溜まつて20歳~27歳まで拒食症でひきこもらざるを得ない状況であつたが、ある日決断をして社会に出た。しんどい事の方が多いし、人付き合いも苦手だし、人前に出たくない時もあった。でも、ひきこもつていた時に戻りたいかというとなつても社会にいたいと思つている。今では守らなければいけないが守つてくれる家族ができた、仲間もできた、分かつてくれる友達もいる。一人でひきこもつていたら、そういうものは得られなかつたと思う。だから何とか不登校やひきこもりで苦しんでいる人達が社会に出て、そういうものが得られればより豊かな人生が送れるのではないかと思つていて、どうにか社会復帰ができる制度がつかれないかと今闘つている。そういう考え方は間違つているのかなと先生のお話を聞いて思つたのですが、日本の社会が変わるのは時間がかかるので、二本立てでやつていかなければいけないのではないかとも思つたのですが。

A : 不登校、ひきこもりは悪いことではない、本人を治すという立場に立たない、とそういうことを強く言いましたので、そのように受け止められたかも知れませんが、私は社会復帰を否定してゐるのではない。むしろ社会復帰をするためにこそ、そういう考え方に立つ方がいいと思う。自分は悪くない、責任はないと思つた方が社会復帰する上で、大きな引け目とか負い目を感じないで世の中にスタート出来やすい。だからこう考えるのは少し無理だけど、敢えてそう考へて自分を励ます、世の中へ出て行く力にしていければいいかなと思つる。

社会復帰してからも闘いの日々だと思つる。厳しい闘いは待つてゐると思つるが、そういうときこそ職場の中の厳しさとか、世の中の凄まじい冷たい風だけでなく、汚い川の流れの岸辺にも生き物がある。今の季節だとカモが飛んでくる。かわいらしい姿を毎日見ていると励ましの声をかけてくれる。そういう自分だけの小さな楽しみをいくつか見つけると、小さな楽しみを持つと人はかなりの苦しみに耐えられるという風に思つる。また、貴方がそのようなお気持ちで頑張つておられれば、必ずそのことを分かつてくれる人がきつと現れる。文章に書く形でもいいし、言葉でもいいし、是非率直にどこかの場でそういうものを発信していつて、それに共感してくれる人を捉まえていつてそういう人の輪を拡げていつて、自分も同じような境遇にある人を積極的に助けるとか、そういう活動をされていけば、きつと頑張れる、展望が開けてくるだ

らうと思う。貴方の考えは全然間違っていないし僕の考えとも違ってない。

Q : 25歳の息子、友人がいなくて話すのは母親だけ父親とは目も合さない。不安だからテレビにばかり依存している。犬は可愛がっている。夜しか行動出来ない。息子ももがき苦しんでいる。

A : 息子さんにどうアプローチするかということから入らない方がよいと思う。問われているのは自分が人生をどう心豊かに生きるかということだと言ったのは、そのこと。直接働きかけるのは凄く難しい。お母さん自身が自分の楽しみを持たれて出来るだけ明るい笑顔で過ごすこと。犬を大事にするというのは希望がある。犬には心が開けるだろうし、犬を大事にするという優しさを持っている。そういうところは長く続けられるように、それとなく気を配って援助してやることは凄くいいと思う。お父さんとの関係はどの家庭でもあること。お母さんが明るい笑顔で過ごす時間が増えれば、多分それはひとつの改善に向けての力になるだろうと思う。だからお母さんが息子さんの問題点ばかりを頭において、悩み苦しんで暗い顔して家の中で暮らすということではなくて、外へ多少出過ぎてもいいと思う。お母さんが楽しみを持って生きられるということが一番大事。犬との関係が引き続きうまくいくようにそういうサポートを出来るだけしてあげたらいい。ご主人には優しくしてあげたらいいかも知れない。ご主人と協力して息子さんにあたれるようになれば凄くいいなと思う。

Q : 弟が親から離れていくように思うが、兄弟、姉妹の関係の影響は。

A : 我が家の例で言えば、後から聞くと、妹はあの時こうしてくれなかった、ああしてくれなかったと言うことはたくさんある。娘から言われてみれば、親として子どもへの配慮が足りなかったと思える。しかしもはや取り返しがつかないので、ごめんねと毎日謝るしかない。今、教育の問題を考えると、一番子ども達に育ててやっておかないといけないものは何かというと学力ではない。「自尊感情」というもの。自我の確立、自己形成というか自分自身を大切にすることが出来てはじめて人を大切にすることが出来る。自分がかげがえの無い存在だとまず考えることでいろんなピンチに立ったとき自分を支えていける、というような説明では説明仕切れていないと思う。もうひとつ深いところで自分をギリギリに追い詰められたときに支えるバックボーンのようなもの、これを育ててあげることが大事だろうと思う。娘は今「自尊感情」ゼロの状態。「子ども達の心の闇」が広がっている状況の原因のひとつがそこにあるのではないかと思う。家庭が変わり、世の中、学校も変わりして、子ども達が「自尊感情」を育むことができないままに大人になっていて、そのことが子ども達、若者達の心の闇の非常に大きな原因になっているかなと思う。それを育ててやらなかったことが何事か問題が起きたときに、いきなり人格まで崩れてしまう弱さになったかなと思う。大人になってから育てるのは難しい、小さいときから「貴方は偉いね、貴方を心から愛して大事にしてるよ」と繰り返し言ってやる。娘の場合それが足りなかった。大学へ合格したときもお祝いもしてくれなかった、おめでとうも言ってくれなかったと今言われる。返す言葉もない。もう少しその辺の配慮が足りていれば、仮に兄に暴力を振るわれてもあんなに一気にガタガタと崩れなかったと思う。

象徴的な例として大阪教育大学の野口先生が、若い頃中学校の先生で大変厳しい教育環境にある学校に赴任した。子ども達は勉強も出来ない、しかし高校には皆行きたいと思っている。そこで先生は20代の若さですので、子ども達を早朝にたたき起こして集めて徹底的に補習をした。見事に高校には合格させた。ところが折角入った高校を子ども達はバラバラバラと退学してしまった。何故そうなったのか、自分の教育に何が足りなかったか、これは自分の持論を裏付けられたようなのでよくお話をします。受験学力、偏差値学力を子ども達に付けても、子ども

は幸せになれないという証拠だと思う。「自尊感情」を育ててやらなかったのは自分の失敗だったと野口先生はおっしゃいます。自分自身が誇りある存在だと、自信が持てる、いつも認められる、そういう経験をたくさん積んでおくほど子ども達はピンチに耐えられる人間になると思う。自分の娘に関する最大の反省点は、そのことです。

息子さんのケースは少し違うと思う。子ども達はある時期、親に反抗したり親の元を離れていったりする時がある。親に今までそういうことをした経験のない息子さんであれば、30になってそれが起きてても不思議ではない。そういうある種の反抗期、親離れをしている時期かも知れない。今バタバタ慌てないで、厚かましがられないような距離をもって付き合っていけばまた気が変わって年老いた親のことを思ってくれる時期が来ると思う。お父さんとしては、それとなく自分達の愛情を伝えるというような形で、今までと同じ濃密な付き合いをやっていこうと思わない方がいいかも知れない。

以上

(文責 本倉)

### 「仙台大会」の来賓挨拶から抜粋(川井)

11月7・8日全国大会「仙台大会」に里副理事長と二人が参加した。始めに主催者のNPO法人KHJ宮城県タオ理事長 佐藤 傑氏の「仙台の地を発信地としてひきこもり対応に支援に 新しい風・新しい光を浴びたい思いの中で仙台大会を挙行了した。ひきこもり対応に新しい夢を抱いて新しい旅に出よう」と挨拶。そのあと宮城県知事、仙台市長(両者代理出席)が挨拶。来賓代表挨拶は参議院議員 島田智哉子先生から「子ども・若者育成支援推進法」制定に至るまでの苦労話が披露された。また基本法であるので、どのように使っていくのが重要であると。(9日の国会予算委員会で島田智哉子先生が鳩山総理に対し、KHJ親の会の今回の仙台大会の様子を紹介しながらひきこもり問題を質問、NHKより全国中継され、鳩山総理は「こういう人達に居場所と出番を見つけることこそが政治の役割と思う。法的には子ども・若者育成支援推進法がある。こういった法律に基づいて、さらに心というものをその中に入れていながら社会全体でこういったひきこもりの若者たちをしっかりと支えていけるようなシステム作りにはしっかりとがんばっていきなさい」と答弁があった。)

参議院議員 山本博司先生は、この2年間のなかで着実に広がっていると実感している。現実はまだまだ壁がある。現実に今年度全国で17箇所しか出来ていない「ひきこもり地域支援センター」にしても、行政とか様々な方々の協力がないと出来ない。地方の行政の方々とタイアップしながらやっていかないといけないと感じている。これは超党派で理解をされている議員の方、行政の方々を見方につけないと進まないと感じている。アウトリーチの問題や中間施設の問題など取り残されている問題をしっかりと取り組んでいきたいと挨拶。

厚生労働省・援護局総務課課長 坂本耕一氏から、これまで福祉行政の様々なリソースを使いながら取り組みを行ってきた。横断的な取組みはなされていなかった。国会議員の先生方のご指摘、ご指導を受け昨年1月から省内を横断的に点検し、体系だった対策を考えていこうと推進チームがつくられた。「ひきこもり地域支援センター」を整備していこうという事業で、相談窓口と情報発信、そこに行けば全体的な対策に結び付け易くするという目的。11月現在で17箇所設置、来年には35箇所設置。整備しない理由は、財政が厳しい、既に設置しているなど、どうすれば全国に設置できるか検討したい。

以上

全国 引きこもり関係 各位様

第5回全国引きこもり家族、支援者代表研修会  
「仙台大会」成功の御礼とご報告

謹啓、日頃より皆様には、大変お世話様でございます。

この度の全国引きこもりKHJ親の会による 第5回「全代研」仙台大会 には、北は北海道から南は九州まで列島を縦断して全国の仲間の家族会やご支援の方々、さらに専門家や施設関係の皆様など、本当に多数の方々のご参集をいただき、誠に有難う御座いました。

また、「法制化元年」となる本大会には、国会や地域議会の多数の先生方、厚生労働省の要職の方のご来駕をいただき、心強いご挨拶をいただくことができました。

第一日目は櫻井先生の基調講演をはじめとして、多くの引きこもり対応の臨床家の参画を得たシンポジウムによる**最新情報の研修**、さらに全国懇親の夕べでは旧交を暖めるとともに新しい仲間をつくることができました。

第二日目は全体会議と多彩な7つの分科会をもち、それぞれ個別のテーマ毎に全員参加の突っ込んだ討論をすることができ、まとめとして、下記の「**大会宣言**」が参加者の大多数の賛同を得て採択されました。

- ・長期重篤な引きこもりは「生活機能障がい」となってしまう、これへの福祉の適用を要望する
- ・家族会は自覚と研鑽を重ね、この家族会機能への物心の公的支援を要望する
- ・引きこもりへのカウンセリングを含む医療費の報酬点数の大幅アップを要望する

\* (従前大会決議～「広島大会決議の10項目」を踏まえた更なる要望に加え、新法などの新たな動向に対応した全国各地区会の要望を明確にし、地方自治体へも的確に提起して行く)

依然として発生し続けている不登校～引きこもりの問題は、この国の次世代問題における重要課題です。今後とも全国各地区会、支援団体の皆様のご尽力をお願い申し上げますとともに、皆様方のご健勝を祈念申し上げます。

なお、大会翌日には、早速「参議院予算委員会」において、来賓出席を頂いた島田智哉子議員が鳩山総理に対し、KHJ親の会の今回の仙台大会の様子を紹介しながら**引きこもり問題を質問**、NHKより全国中継されました。

鳩山総理は「**引きこもりの居場所、出番を考え、確保することが政治**」であるとの答弁がありました。

大変に嬉しい、こころ強い言質と受け止めております。

敬伯

< <http://www.khj-h.com/douga/091109simada.wmv> > 左記のサイトよりその動画(3分)を参照下さい。

平成 21 年 11 月 13 日

NPO法人(内閣府認証)

全国引きこもりKHJ親の会(全引連)

理事長 奥山雅久 本部理事会 部会長会

地方ブロック会長 KHJ宮城「タオ」